

2024年度

東邦大学附属東邦中学校

前期入学試験問題

国語

(100点 45分)

注意

1. 監督者の「始め」の合図があるまで、問題用紙を開いてはいけません。
2. 問題用紙は19ページあります。試験中にページの不足などに気づいた場合は、手をあげて監督者に知らせなさい。
3. 監督者の「始め」の合図のあと、最初に受験番号と氏名を解答用紙のそれぞれの欄に記入しなさい。
4. 答えはすべて解答用紙に書きなさい。
5. 問題用紙はどのページも切りはなしてはいけません。余白等は適当に利用しなさい。
6. 監督者の「やめ」の合図で筆記用具を置き、所持品はそのままにして、ただちに退室しなさい。
7. 問題用紙は持ち帰りなさい。

一 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

東京は緑多き都である。

と、このように書いてもピンとこない人は、おそらく東京生まれの東京育ちで、しかもあまり旅に出ないのではあるまいか。

I、生まれ育ったふるさとの風景は見慣れてしまつて、言われてみればそうかもしれない、と今さら気が付く向きもある。

そして、初めて上京した方の第一印象は、「意外に緑が多い」ではなからうかと思う。

もともと山地に恵まれ、南北に長い日本は多様な植物のホウコである。たとえば世界の大都市と比較した場合、マンハッタン島の厚い岩盤の上にあるニューヨークは、摩天楼を築くにはもってこいだ、樹木の生育には適さない。広大なセントラルパークが人工的に造られたのは十九世紀半ばで、今も公園内にはむき出しになった岩盤を見ることのできる。自然に親しめるだけの緑地はほかにないと言つてもよからう。

ヨーロッパ諸都市の緑は厚いが、そもそも農作物の生育に適した土地に人間が住みついた、と考えるべきであろうか。新大陸に渡つた開拓者たちは、何よりもまず乾燥した大地に呆然としたはずである。

乾燥地帯と言へば、北京は砂漠の中のオアシスに造られた都市に思える。内陸部なので冬の寒さは厳しく、夏の暑さはまたひどい。いきおい樹木の多くが人工的な植樹であることは一目瞭然である。はじめに満州族の金が都を据え、次いで蒙古族の元が都したのち、漢族王朝の明が入り、以後はふたたび満州族の清が都に定めた。明を除けばすべてが北方民族であることを考えれば、気候風土の条件はさておき、本国に近いところ、**II**万里の長城に近い場所が、戦略的に好ましいとされたのであろう。

上海も緑は少ない。商業都市として発展すれば、そうなるのは当然である。**(1)** 同じ理由から日本では、大阪が緑に恵まれていないと思える。

(2) ここで東京の緑について考えてみると、面白いことに気付く。東京の公園には諸外国に見られるような、人工的なわざとらしさが少ない。その多くは、都市計画によって造成された緑地ではないのである。

たとえば、皇居という最大の緑地はかつての江戸城である。皇居前の広場も霞が関の官庁街も大名屋敷。上野公園は戊辰戦争で大半を焼失した寛永寺の伽藍跡であり、芝公園は寛永寺とともに徳川家の菩提寺である増上寺の寺域、さらに新宿御苑は信濃高遠藩内藤駿河守の下屋敷で、明治天皇と昭憲皇太后を祀る明治神宮は、ほぼ全域にわたり近江彦根藩井伊家の下屋敷であった。ほかにも赤坂御用地は御三家紀州藩の中屋敷、市ヶ谷の防衛省は同じ御三家尾張藩の上屋敷、東京大学は加賀百万石前田家の上屋敷跡地に造られた。

そのほか首都機能のほとんどは、こうした旧寺社地、旧武家屋敷跡を利用したのである。その割合は江戸御朱引内のうち八十四パーセントに及んだから、町人たちは残り十六パーセントの狭い土地に、押し合い、押し合ひして住んでいたことになる。この状況をテレビドラマや映画で再現した場合、長屋のセットはかなりリアルであろうが、武家屋敷や江戸城大奥などは、だいぶダウンサイジングされていると考えるべきである。

III、江戸の約七十パーセントを占める武家地は幕臣や大名家の所有地ではなく、徳川將軍家が貸し与えた、いわば「社宅」であった。

よつて明治政府の徳川家に対する「辞官納地」という処分は、あまりに過酷であった。「辞官」は官位を辞する、「納地」は領地の返上である。諸大名は領国に帰ればよいが、幕臣たちは住む家さえなくなるのである。彼らの本音としては、「王政復古」も「大政奉還」もやれるものならやってみろ、「辞官」だつてどうでもよい、しかし「納地」はご勘弁、というところであろうか。慶応四年正月に始まった鳥羽・伏見の戦は、この処分に対する旧幕臣たちのクーデター、もしくは一種の労働争議と言えよう。

A そうした世情の中での**(3)** 東京遷都は相当の冒険だったはずである。しかしそれでも断行されたのは、欧米に倣った中央集権国家を確立するための首都機能が必要だったからである。

この基本政策の決め手となったのは、辞官納地によって明治政府が接収した旧武家地であった。京都には港が

なく、大阪には首都機能を收容する余裕がないが、東京には十分な土地、それも大名庭園まで備えた広大な緑地が残されていた。

〔B〕東京が緑多き都である理由はこれである。しかも二百六十五年間も戦争をしなかった結果の遺産が、官庁や大学や博物館や動物園として国民に供せられ、それでもまだ余った庭園は、セントラルパークにも、^{※3}ハイドパークにも劣らぬ豊かな緑地となった。

〔C〕亡くなられた^{※4}坂本龍一さんは、私と同学年であり、同じ東京都中野区の生まれであった。つまり、同じ時間の同じ距離、同じ角度から東京を見ていた。おそらく、このごろの東京の変容ぶりに、心を痛めていらしたのとは私と同様であろう。⁽⁴⁾ふるさとの発展を希んでも、変容を希む人はいない。まして芸術は自然との対話である。

私は時代小説を書くようになってから、東京を江戸時代と地続きの場所として捉えるようになった。頭の中に重ねられた地図をめくれば、記憶にない昭和戦前期から幕末までの東京が現れる。

〔D〕今からたかだか百六十年前、坂本さんと私が生まれるわずか八十数年前は江戸時代だった。

〔E〕明治維新の本質は「植民地にならないための国家改造」であったから、欧化政策は急進的であり、江戸時代を遙かな昔に追いやってしまっただけである。

都心の再開発を唱える人々は、⁽⁵⁾このたかだかの距離感、わずかな歴史を見誤っているのではないかと思える。少なくともここで論じられているのは今日の利益であって、必ずしも未来の国民に資するとは思えない。私は再開発という美名のもとに、父祖が遺してくれた東京の緑がこれ以上損なわれることを潔しとしない。

現在の神宮外苑はかつて大名屋敷や旗本御家人の屋敷であった。明治期の練兵場に始まり、今日の外苑に至るまで緑が厚く広いのは、そうした歴史によると思われる。まして、イチヨウが枯れるか枯れざるかという問題ではない。私たちがこの変容の時代に遺すべきものは、世界に冠たる東京の緑、けっして高層ビルに代わられてはならぬ永遠の緑である。
(浅田次郎「東京の緑」より。)

(注) ※1 伽藍……大きな寺の建物。

※2 御朱引内……江戸時代、幕府によって定められた江戸の範囲。

※3 ハイドパーク……ロンドン中心部にある王立公園。

※4 坂本龍一……日本の音楽家。

問1 線「ホウコ」の「ホウ」と同じ漢字を使うものを次のA～Iの中からすべて選び、記号で答えなさい。
い。なお、正解は一つとは限りません。いくつかある場合には、そのすべての記号を書きなさい。

A	ホウチされたままの空き家。	B	正午のジホウが聞こえる。	C	シホウから敵にせめられる。
D	昔行った町をサイホウする。	E	ホウガイな値段の自転車。	F	チョウホウしているかばん。
G	周りを警察にホウイされる。	H	七色にかがやくホウセキ。	I	今年のさんまはホウリヨウだ。

問2 線a「ピンとこない」、b「潔しとしない」の本文中の意味として、もつとも適切なものを次のA～Eの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

a	ピンとこない	A	生理的に受け付けない	B	論理的に理解できない	C	積極的に考えられない	D	本能的に反対できない	E	直感的に感じ取れない
b	潔しとしない	A	不思議だと思わない	B	忘れたいと思わない	C	許すことができない	D	止めることができない	E	反対することができない

問3 本文の段落の先頭に次の一文を入れるとすると、どこが適切ですか。この文が入る段落としてもっとも適切なところを本文中の[A]～[E]の中から一つ選び、記号で答えなさい。

それほど遠い昔ではない。

問4 [I]～[III]にあてはまる言葉としてもっとも適切なものを次のA～Hの中から一つずつ選び、それぞれ記号で答えなさい。

- A すると B ところで C すなわち D そこで E したがって
F だから G なぜなら H もっとも

問5 線(1)「同じ理由から日本では、大阪が緑に恵まれていないと思える」とありますが、どのような理由で大阪が緑に恵まれていないと考えられますか。もっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 緑を増やそうとすることよりも、商業が発展しやすいように都市の環境が整えられたから。
B 気候風土に適した都市づくりを優先すると、緑に親しみがもてる商業都市はできなかったから。
C 乾燥地帯だった土地を住みやすく変えるために植樹したが、緑が育つ環境条件ではなかったから。
D 商業を発展させるために選んだ土地が、もともと岩盤が多く緑が育たない土地だったから。
E 外国からやってくる敵を防ぎやすい土地として選んだ場所が、緑が育ちづらい土地だったから。

問6 線(2)「そこで東京の緑について考えてみると、面白いことに気付く」とありますが、「面白いこと」とはどのようなことですか。その説明としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 東京の緑は人の手がまったく入っていない自然そのものであるということ。
B 東京の緑は人々の生活のそばにもともとあった自然であるということ。
C 東京の緑は人々が生活する都市の中に新たに作られた自然であるということ。
D 東京の緑はすでに存在している自然を人の手で増やしたものであるということ。
E 東京の緑は人が江戸の町を改めて作ろうとして移した自然であるということ。

問7 線(3)「東京遷都は相当の冒険だったはずである」とありますが、筆者がそのように述べる理由としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 「辞官納地」によって、幕臣たちが領地を失ったことに強く反発して、政府と争う状況下であったから。
B 「辞官納地」だけでなく、「王政復古」や「大政奉還」などの政策への反対派が多く存在していたから。
C 「辞官納地」は、諸大名も幕臣も受け入れがたいものだったので、強い反対を招く可能性があったから。
D 東京だけではなく、他の場所にも緑が豊かで首都機能を置くことのできる地域があるとわかってきたから。
E 東京遷都をしても、新しい国家体制における首都機能を果たすことができる条件が整っていなかったから。

問8 ——線(4)「ふるさとの発展を希んでも、変容を希む人はいない」の説明としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 東京をふるさとと考えて暮らす人が多くなつていくことは望ましいことだが、自然に関心を持たない人が出てくるのは望ましくないということ。
- B ほこりを持つて居る場所として多くの人に認められることは望ましいことだが、多くの人が住むために高層ビルを建てるのは望ましくないということ。
- C 緑あふれる都としての東京がそのまま緑を増やすことは望ましいことだが、緑を減らして人工的な施設を増やしていくのは望ましくないということ。
- D ふるさとの良さを引きつぎさらに住みよくなることは望ましいことだが、元の形が失われて異なる土地になつていくのは望ましくないということ。
- E 日本各地のふるさとがそれぞれ独自に良くなつていくことは望ましいことだが、東京だけどんどん開発が進んでいくのは望ましくないということ。

問9 ——線(5)「このたかだかの距離感」とはどのようなことですか。その説明としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 人間の作り出す歴史と自然はいつもとなりあう関係であるということ。
- B 政策によっては国の歴史が大きくぬりかえられてしまうということ。
- C 江戸時代から現代までの時間はそれほど長い年月ではないということ。
- D 未来の東京は緑がなくなればすぐに様変わりしてしまうということ。
- E 世界でも都市の再開発が進めばどこも同じになってしまうということ。

問10 ……線「東京は緑多き都である」とありますが、その理由を説明した次の□にあてはまる言葉を本文中から**三十字以内**でぬき出し、**最初と最後の三字**ずつを答えなさい。(句読点、記号等も字数に数えます。)

□から。

問11 筆者の主張としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 自然の豊かさを保つていくことは世界共通の価値観であり、世界にさまざまなことを発信していく都市としての東京の緑がなくなつてしまうことは容認することはできない。
- B 東京はこれまで引きつがれてきた歴史の中で、世界のどこにも見ることのできないような緑豊かな都市となつたわけで、その東京の緑を安易になくしてしまつてはならない。
- C 東京がこれからも日本の首都として機能していくためには、このまま再開発を進めることは必要なことであるが、東京の緑を保存していくための方策も検討するべきである。
- D ふるさとである東京に住み続けている筆者は、東京の今の姿を見て心を痛めており、ふるさとのあるべき姿を守りつつ地球環境保護の一環として東京の緑を残していきたい。
- E 東京だけでなく世界中の都市は高層ビルの建設などで自然が少なくなつてきており、せめて東京だけでもそのままの自然を後世に遺していくことが私たちの使命なのである。

二 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「でも、※¹伊原、ずいぶん早くから受験の準備してたでしょ」
誤魔化すように話を戻す。

「(1) 小心者だから」
あれほど男らしく変貌したのに絵麻にはこの言われようだ。もしや、受験の準備を早くから始めたことで余裕ができ、それが今の伊原の男らしさに見えているのかもしれない。

クラスの子たちは、北風の訪れと共に一斉に大人しくなった。校庭で走り回っていたサッカー部の子たちも、土日を潰して練習していた野球部の子たちも、皆休み時間にこぞって机に向かっていた。かといって勉強をしている様子ではない。ただ、机に向かってほんやりしている。

尚美には、少しだけその気持ちがあわかった。
やる気はないのにプレッシャーがあつて自由になれない。中途半端に体を机の前に置いておけば、少なくとも後ろめたくはない。

ぎりぎりになって講習に申し込んだ十日ほど前から、三日に一度の割合で尚美もそれを経験している。
「そもそも、努力してできた結果って、信用ならなくない？」

絵麻が、母親のお古の ※² ステンカラーコートのポケットに手をつ突っ込んだまま、(2) 肩を竦めた。

「だって、それって、努力しなきゃできないってことじゃん」と、「できない」の部分強調して続ける。

「エマチンが頑張らない派だってことは判るけど、伊原にそんなこと言ったら傷ついちゃうよ、きつと」
ポケットの中の指先が、ぎりぎりする。

どうして制服や、制服用のコートのポケットの中は、いつもぎりぎりするのだろう。もう砂遊びをするような年齢じゃないのに。

尚美は、ポケットから手を出した。掌が大きく息をついたように感じる。

「頑張るっていう姿勢はかっこいいと思うよ。そこに価値があると思うし。でも、それによつてもたらされた結果を、自分のものみたいに思っちゃうのって、怖いじゃん」

(3) もたらされたという言い回しが気に障った。

いつもの尚美なら、うんうんと頷いて、やっぱり絵麻はスゴイなあと思つていただろう。だが、今日はつまりない何かがいちいちこつんとぶつかってくる。

(4) 結果は結果なんじゃないの？」

自分が ※³ おためごかしに努力しようという矢先に言われたから気に障るだけだと判る。
それでも、口にした。

「例えばさ、伊原が将来、猛勉強して東大に入つてもさ、それって猛勉強の結果が東大合格つてだけのことだしよ？ 伊原という人に東大ブランドの価値があるってことにはならないはずなのに、そのへん、勘違いしたりする。別に、伊原がそう勘違いしてるって話じゃなくて、ただ、たとえ話に使っただけだけど」

尚美の反論口調にも動揺せず、絵麻はいつもの調子で淡々と話すだけだ。

(5) 言っていることはいちいち判る。正しいとも思う。なのにどうしてか、いつもは素直に受け入れられる絵麻の正しさが今日だけは飲み込めずに喉を塞ぐ。やっぱり何か正しくないような気がしてしまうのだ。

「でも、結果を導きだすだけの努力を成し遂げるってことが、その人の価値を高めるんじゃない？ 少なくとも、そういうことになってるんだと思うけど。でなかったら、誰も努力なんかしないよ」

何をむきになってるんだらうと自分でも不思議だった。絵麻は穏やかな微笑みで尚美の意見に頷き、しばらく黙った。

絵麻が何を考えているのだろうと、少しだけ不安になる。

掌をまた ※⁴ ビーコートのポケットに突っ込んで、ぎりぎりを確かめた。その感触は尚美を苛々させる。指先に目がついているように色を感じた。

どんな色だかわからないけれど、ぎりぎり色。そう感じてしまう尚美のぎりぎりした部分が、絵麻をぎりぎり

させてしまったのか、それとも絵麻のざりざりに擦られて、自分がざりざりしてしまうのか。ダイヤモンドでもルビーでもない、ざりざり色だ。

「あたしは違う。成し遂げられる程度の努力を努力と思いたくないし、努力しなければ出せない結果を自分の価値とは結びつけられないよ」

いつもながら口調は穏やかだが、絶対に譲らない意志のある言い方をする。

尚美は際限なく苛立つ自分を感じている。だけど、何をどう言えば絵麻の意見に立ち向かえるのかが判らない。自分にだって絶対に譲れない確固たる考えはある。なのに、それをうまく言葉にして伝えられないことがもどかしい。いつも言葉使いの巧みな絵麻の言い分に便乗することで、そのもどかしさを避けてきた。言いなりになっていたとは思わないが、そうと気がつく、自分はいつでも言葉にできないだけで、絵麻とは違うことを考えていたのではないかとも思う。

私たちの間に音楽があればいいのに。

二人で声を合わせて「ざりざりの歌」を歌えば、通じるかもしれない。

押し黙ってしまった自分を誤魔化すように小さな咳払いをした。

「どうしてあたしたちの年代って、みんな、価値観を統一させたがるんだろうね。尚美はそれが無いから好きだな」

声の調子を少し上げた絵麻が、そう言っただけで笑った。花のような笑顔だ。(6) 絵麻なりの手打ちが嬉しい。なのに、それすら尚美には言えず、最強の笑顔さえざりつと尚美を擦り上げてくる。思わず「痛っ」と声をあげたくなつた。

自分の口元がへの字になっていることがわかった。きつと二度と鏡を見たくなくなるような顔になっている。

「エマチンが思ってるほど、みんな馬鹿じゃないと思うよ」

言うつもりもなかった言葉が、ぼろりと溢れた。

(中略)

絵麻は(7) はっきりと傷ついた目を返した。

絵麻が言いたいことはわかっている。

そんなふうには思っていないと言いつつ返さない絵麻は、何を思っただけで黙ってしまったのか。

自分の底意地の悪さに息苦しくなった。

絵麻がそんなふうには思っているわけじゃないと判っていたいながら、そんな言い方になってしまった自分のとげとげしい気持ち、一体どこから湧き上がったのだろうか。

絵麻を傷つけようとした。わざと傷つく言い方を選んだ。

言いたいことを伝える言葉はどんなに指先がざりざりしても探し当てられないのに。自分を守りたいだけの意地悪な棘は、考える間もなく飛び出してしまふ。ざりつと音を立てて、絵麻を傷つけた。

努力することは無駄じゃないと、そう言ってもらいたかっただけだ。たとえ絵麻がそう考えないのだとしても、「尚美の努力は無駄にはならないよ」と、励まして欲しかった。

今、そう言えれば。

だが、尚美には、それだけのことを伝える勇気がない。

「やっぱ、(8) ソニプラですかね」

もう一度向けられた花の笑顔に、今度は確かに救われて、ぎこちなく微笑みながら頷いてみせる。

目指す店の前はどうに通過していた。ただ喋るためだけに歩き続けていたと気がつく。沈黙をかき消されることに安心して、雑踏へ雑踏へと歩き続けていたのだ。

センター街の中央にある十字路から横に出て雑貨店の並ぶ通りを引き返し、駅にほど近いファッションビルに向かう。

「ソニプラなら、(9) 恵比寿の方が近かったじゃん」

(8) 尚美には、そう言うのが精一杯だった。

「そうだね」

振り絞った勇氣は絵麻の爆笑に救われた。

学校帰りにそのまま寄り道しての買い物だったら、こんなおかしな気持ちにはならず済んだだろう。したいことと、しなくちゃいけないことと、それらを押し込むべき自分の時間は、いつも尚美をばらばらにしてしまう。

絵麻に聞こえないよう嘔み潰しながら、ため息を吐き出した。

(前川麻子『パレット』より。)

(注)

- ※1 伊原……尚美や絵麻と同じ公立中学に通う三年生。明るい性格で絵麻のボーイフレンド。
- ※2 ステンカラーコート……冬用のコートの一種。
- ※3 おためごかし……いかにも人のためにするように見せかけて、実は自分の利益をはかること。
- ※4 ピーコート……冬用のコートの一種。
- ※5 ソニプラ……輸入雑貨専門店「ソニープラザ」を略した呼び方。
- ※6 恵比寿……東京都渋谷区にある地名。

問1 ——線(1)「小心者だから」とありますが、このあとに続くと考えられる言葉としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A ほかに何もしたいことがなかったんだよ。
- B 勉強しない自分が情けなくていやなんだよ。
- C 何かをしていないと落ちつかないんだよ。
- D 勉強を始めないと不安でしかたないんだよ。
- E 勉強している友だちを見たくなかったんだよ。

問2 ——線(2)「肩を竦めた」とありますが、この動作には絵麻のどのような思いが表れていますか。もっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 納得しかねるという思い。
- B わけがわからないという思い。
- C 見そこなったという思い。
- D 自分には関係ないという思い。
- E 気味が悪いという思い。

問3 ——線(3)「もたらされた」という言い回しが気に障った」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A その人ががんばった成果ではなく、たまたま実力以上の成果が出ただけであるかのように思えたから。
- B その人の力のように見えるものの、元々そうなる道すじだったのだと言っているように聞こえたから。
- C その人の成功は本人だけのものではなく、支えた親や教員のおかげであるかのように考えているから。
- D その人が努力しようがするまいが、最終的な結果は初めからわかっていたかのように言っているから。
- E その人が勝ち取ったわけではなく、その人ではない別の何かが与えてくれた結果のように感じたから。

問4 ——線(4)「結果は結果なんじゃないの?」とありますが、この発言について以下の問いに答えなさい。

I これはだれの発言ですか。次のA・Bから一つ選び、記号で答えなさい。

A 絵麻 B 尚美

II この発言の内容の説明としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A 結果とひと口に言っても、短期的結果と長期的結果があるので、そのどちらを重視すべきかは場合によって異なる。

B 努力は人に知られず行うべきものであり、本人以外はその努力の達成度を結果という形でしか見ることができない。

C その人が実は全く努力していなかったとしても、良い結果が出たならばその人の行動は正しかったと考えるしかない。

D その人の努力と結果とは必ず結びつくとは限らないので、結果だけでその人の努力を評価するのはまちがっている。

E 結果はその人の努力の表れで、良い結果は努力が十分だったことを示すのだからその人を評価するよりどころとなる。

問5 ——線(5)「言っていることはいちいち判る」とありますが、尚美のとらえた絵麻の考え方としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A ある人が上を目指し、全力を尽くして目標に到達したとしても、その目標は客観的に見てそれほど目を見張るようなすごさを持っていない。それなのに本人も周囲も目標に到達したとばかりに目が行き、客観的な見方ができなくなってしまうのは残念なことである。

B ある人が上を目指し、全力を尽くして目標に到達したとしても、それはあくまでも努力に対する成果であって、その人自体の価値とは別物である。それなのに成果の全てを自分のものにできたかのように思いこんだり他の人がその人を評価したりするのはおかしいことである。

C ある人が上を目指し、全力を尽くして目標に到達したとしても、それはその人の限界に過ぎず、目標自体の持つ価値はまだまだ奥が深い。それ以上はその人がいくら努力しても得ることができない可能性もあるので、あらゆる可能性を視野に入れることが大切なことである。

D ある人が上を目指し、全力を尽くして目標に到達したとしても、実は単なる偶然くうぜんによってたまたま得ることができた結果である。偶然による成功を自分の実力と思いこんでも、いつかは自分の実力の低さを痛感することになるので、そのことに気づかないのは気の毒なことである。

E ある人が上を目指し、全力を尽くして目標に到達したとしても、実はその人が目指す目標は別のところにあるということによくある話である。自分をしっかり見つめて目標を設定すべきなのに、まわりの人の見方に流されて安易に決めてしまうのはその人にとって不幸なことである。

問6 ——線(6)「絵麻なりの手打ち」の説明としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

A たがいの異なる意見を尊重しつつ、話題に区切りをつけようとする。

B とりあえず結論をたな上げして、また別の機会に話し合おうとすること。

C 自分が正しいということを示しながら、相手に合わせたふりをする。

D 明るい顔を見せながら、自分の考えを無理やり押しつけようとする。

E 相手の考えを悪く言うのをさけて、自分たち世代全体の責任にすること。

問7 ――線(7)「はつきりと傷ついた目を返した」とありますが、それはなぜですか。その理由としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 尚美の発言から尚美が本当は絵麻をずっときらっていたのだということを知ってしまったから。
- B 尚美の発言から絵麻自身これまで考えてもいなかった自分のみにくい考え方に気づかされたから。
- C 尚美の発言から意外にも尚美が悪意をもって絵麻の気持ちを傷つけようとしたことがわかったから。
- D 尚美の発言から尚美がいつの間にか絵麻も及ばないほど言葉たくみな人に成長していたと思ったから。
- E 尚美の発言から絵麻が自分は他人より優れた者だと思っていると非難されたように感じたから。

問8 ――線(8)「尚美には、そう言うのが精一杯だった」とありますが、この時の尚美の気持ちの説明としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 絵麻がおどけた言動で自分をなんとか元気づけようとしてくれていて感動したが、本当に自分を心から許してくれているのかをためしてみようとした。
- B 絵麻の笑顔について浮かべてしまった自分のほほえみを後悔し、絵麻の言葉のあげ足を取ることで絵麻をまだ心から許していないことを示そうとした。
- C 絵麻がわだかまりのない言葉をかけてくれたことにほっとするとともに、あえて軽い不平を言うことで絵麻とこれまで同様の仲の良さでいられることを確かめようとした。
- D 絵麻が自分のささくれた気持ちに寄りそおうとしていることに反発を感じ、わざといじわるな言葉を返すことで絵麻の落ち着きはらった笑顔をひっこめさせようとした。
- E 絵麻の笑顔を見てほっとした気持ちになると同時に、できることなら絵麻の思いもよらないような面白いことを言ってその気持ちをさらに明るくさせたいと考えた。

問9 本文の尚美についての説明としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A いつもならばすなおに受け入れられる絵麻の強い発言に、なぜかこの日は一つ一つひっかかるものを感じてしまった。自分も傷つくことを承知の上で絵麻に批判を試みると絵麻は優しく対応したが、絵麻の笑顔の下にさげすみがあるのを見ぬいてしまった。
- B 自信を持って断定的なことを言う絵麻の、同級生を見下すような発言に自分を非難されてしまったように思ってしまった。いつまでも冷静になれなかったため、絵麻のこれまでの発言を自分は何の疑問も持たずにそのまま受け入れていたようにさえ感じてしまった。尚美の気持ちを見ぬいたかのような絵麻の笑いで、尚美は自分の誤解に気づいた。
- C 絵麻は同級生ではあるが尚美にとってはまるで大人と接するような気おくれを感じるような存在だった。しかしこの日は絵麻の発言にまったく誤りがあるように感じられてしまった。さりげなく指摘したつもり言葉は結果的に絵麻より自分を傷つけるものとなってしまい、絵麻のなぐさめを受けても、自分の表現力の少なさを反省するばかりだった。
- D 自分の中にしっかりとった価値観を持つ絵麻をかなわない存在だと思っていたが、この日は高校受験に対する不安もあり、絵麻の考えをそのまま受け入れられずにいた。自分自身がいやになるような言葉でしか絵麻に接することできない自分をもてあましていた。絵麻と大きく対立することはなかったが、それでもすっきり心が晴れるまでには至らなかった。
- E 極端ではあるが真実をすべて指摘する絵麻の発言にいつもは同意することしかできなかったが、この日は反発したくてたまらなかった。しかしいざ否定しようとしても自分の考えをうまく言葉にすることができず、絵麻に笑われて情けなく感じた。

問10 本文の説明としてもっとも適切なものを次のA～Eの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- A 尚美と絵麻が町中を歩く場面で、尚美にとって周囲の人ごみは単なる背景ではなく、絵麻との気まずさを救ってくれる役割をも持つことがわかる。
- B ポケットの中のざりざり感について、「制服や、制服用のコートのポケットの中」という限定により、学校生活がすべての不満の原因だと尚美が思ったことがわかる。
- C 「北風の訪れと共に一斉に大人しくなった」という表現から、男子たちが受験に対する意識ではなく、寒くなったことで勉強に向かったことがわかる。
- D 「ざりざりの歌」のような音楽があれば良いのにと絵麻が思っていることから、絵麻が言葉よりも音楽の方が自信があると考えていることがわかる。
- E 絵麻も尚美もともにその言動は記されるが、心の動きは尚美のものしか記されないことから、絵麻が尚美にとって不可解な存在であることがわかる。

一

二

問 1

--

問 2

a

--

b

--

問 3

--

問 4

I
II
III

問 5

--

問 6

--

問 7

--

問 8

--

問 9

--

問 10

問 11

--

問 1

--

問 3

--

問 4

I
II

問 5

--

問 6

--

問 7

--

問 8

--

問 9

--

問 10

--

受験番号
氏 名

総 得 点

一の得点

二の得点

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

--